DESIGN GRADUATION WORKS 2024

会津大学短期大学部 産業情報学科 デザイン情報コース

卒業作品集

DESIGN GRADUATION WORKS 2024

ごあいさつ

会津大学短期大学部産業情報学科デザイン情報コースでは「デザイン情報コース卒業研究発表会」を経て、「卒業作品展」にて卒業研究ゼミナールの成果を一般の方々に公開し、ご批判を仰いでまいりました。この作品集はその集大成でもあり、発行も本年で20回目を迎えました。

産業情報学科では、卒業研究ゼミを必修科目として位置づけ、デザイン情報コースでは具体的なテーマ設定のもと、問題解決能力や創造性の研鑽に取り組んでまいりました。その内容はインターフェース、インテリア、グラフィック、クラフト、プロダクトのデザイン５分野にわたり、地域活性化に向けた取り組みや産業の支援、生活を豊かにするための提案など様々ですが、いずれも地道な調査・研究を裏付けとした力作です。新型コロナウイルス感染症も５類へと移行し、それぞれの研究テーマに対する現地調査や検証、制作に向け積極的に活動する学生たちの姿に以前の活気も感じられました。「地域をつなぐひのき図書館の活用研究」では、現地でのミーティングをはじめヒアリング、アンケートから、高齢者や子どもたちとの交流ツールをデザインし検証する優れた提案となり、「新たな漆塗りの魅力を伝える椅子の提案」では、仏像制作に用いられる乾漆技法による椅子の制作について考察を重ね、漆の可能性を追求した研究作品となりました。また「会津若松中心市街地活性化」においては行政と協力しながら調査を進め、市の活性化基本計画を市民によりわかりやすく伝えるためのパンフレットを制作しました。その他にも「ジョイントに着目した竹スツールの提案」「酒造 会津錦広報ツールの提案」や「伊達ニットの魅力を伝える広報ツール」など、地域の課題解決に向けた具体的な取り組みは、本学ならではの研究と言えます。各専門分野とも一人ひとりが真摯に取り組み、それぞれの学びを活かしたすばらしい提案となりました。

卒業する学生諸君は、創作への熱意を持ち続けた日々を大切に、この卒業研究ゼミで経験したプロセスと反省を通じて、創造することの喜び、諸問題に挑戦するエネルギー、達成感などを糧に、今後の社会生活の中でさらなる飛躍につなげてほしいと願っています。

最後に、この卒業研究および卒業制作にご支援、ご協力をいただきました学内外の関係者のみなさまに深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。

2024年3月
会津大学短期大学部 産業情報学科
学科長　井波 純

目次

4 木製玩具ブランド「kitomo」の紹介Webサイトの提案
上野 愛果

5 カーボンニュートラルを目指す会津若松市湊町の炭活用を広報するツールの提案
小泉 優奈　齋藤 雅

6 酒造「会津錦」広報ツールの提案
渡部 さくら

7 喜多方における蔵の保存・活用研究
島三の蔵の連なりを活かした通りのデザイン提案
江花 葵

8 会津大学短期大学部エントランス中庭におけるデッキ空間の活用
大場 千奈

9 子どものための移動式遊びユニットの提案
小林 さゆり

10 廃材を使った家具の提案
須藤 由佑緋

11 地域をつなぐひのき図書館の活用研究
地域における私設図書館活用・デザイン提案
高橋 ひなた

12 認定こども園における子育て支援の研究
榎の木こども園における子育て支援スペースのためのデザイン提案
古川 美羽

13 会津若松市民に伝える広報誌リニューアル
岡田 海佳瑠　山口 夏琳

14 会津若松中心市街地活性化
阿部 叶葵　桑田 凜花　野崎 花

16 喜多方ラーメンと女性客を繋ぐデザイン
飯島 凜

17 伊達ニットの魅力を伝える広報ツール
石神 優也

18 子育てに向き合うためのデザイン
瀧 萌子

19 自然環境教室の生き物を学べるポスター
古川 仁互

20 漆と日本固有種の保全を訴求する玩具
大粒来 莉々

21 可変式漆塗りミニ仏壇の提案
片桐 成

22 新たな漆塗りの魅力を伝える椅子の提案
神野 恵司

23 漆×推し活
千葉 有紀乃

24 ジョイントに着目した竹スツールの提案
石川 凌太郎

25 竹を使用したマルシェテントの提案
近藤 直道

26 音量を抑える簡易型防音室の提案
齋藤 司

27 視覚障がい者向けのボードゲーム
豊島 充望

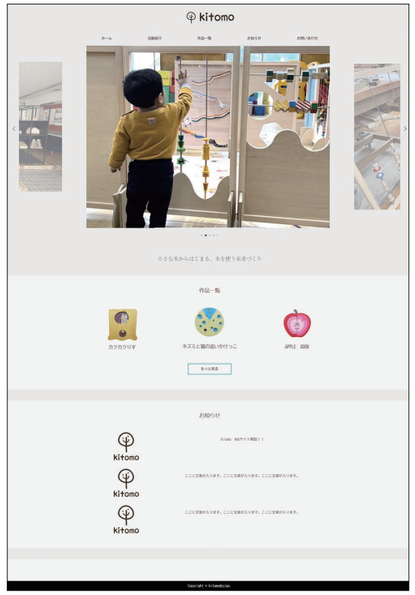
28 陶紙を用いた食器の提案
吉田 美桜

29 ゼミ紹介

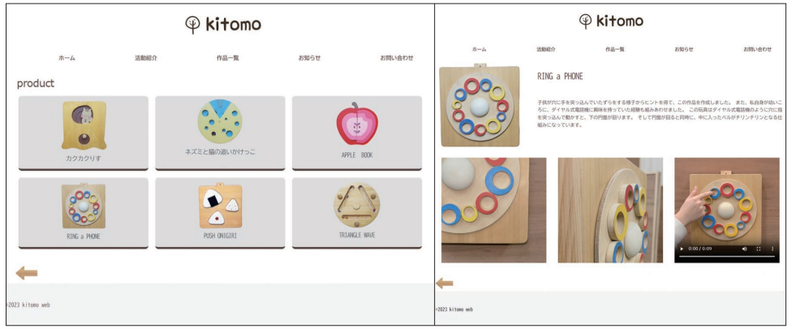
木製玩具ブランド「kitomo」の紹介Webサイトの提案

上野 愛果

本学のプロダクトゼミは、企業と共同で「kitomo」というブランドを立ち上げ、木製玩具のデザインを行っている。しかし、この活動についてあまり知られていないのが現状である。本研究では、サイトを通じて「kitomo」の活動内容や実績を知ってもらい、木製玩具を作ることのおもしろさ、楽しさを伝えることを目的とした。高校生を対象にアンケート調査を行い、その結果、文字よりも写真や動画で情報を伝えることで印象に残ることがわかった。サイト全体は木製玩具の良さを引き立てるようなシンプルなデザインを心掛け、商品紹介ページでは玩具の特徴を活かした写真や動画を使用し、わかりやすいサイトデザインを目指した。今後サイトを更新していくことで、より多くの人が「kitomo」について知るきっかけになるのではないかと考える。



a



b c

d

a. トップページ　b. 作品一覧（デスクトップ版）　c. 作品紹介（デスクトップ版）　d. 作品一覧（スマートフォン版）

［使用ソフト・サイズ］Illustrator、Photoshop、Dreamweaver、XD
（デスクトップ版）幅 1920 pixel （スマートフォン版）幅 375 pixel

カーボンニュートラルを目指す会津若松市湊町の炭活用を広報するツールの提案

小泉 優奈　齋藤 雅

会津若松市湊町では、木炭や燻炭などを活用したカーボンニュートラル事業の推進を目指している。そこで、湊町の炭を広報できるコンテンツとしてホームページの制作と木炭や燻炭の販売を想定したパッケージとロゴ制作をした。実際に木炭づくりに参加し、湊の炭の歴史や品質の良さに気づくことができた。ホームページ制作では、湊町の豊かな自然を感じてもらえるよう現地で撮影した写真を多く使用し、写真のスライドや文章が浮かび上がる演出で興味を引くデザインにした。木炭のパッケージとロゴの制作では、6 kgで販売されることを想定したデザインを行い3つのパッケージの制作を行った。それぞれ湊町の特徴を感じることができるよう、フォントのデザインや色・柄に個性を持たせ、パッケージでは毛筆書体の伝統的な表現とポップな書体の表現のデザインを提案した。

a

b

d

c

a. トップページ「カーボンニュートラルとは」
b. ホームページ「湊町について」
c. 木炭のパッケージ（紙袋）用に提案したロゴ
d. ホームページ「今までの取り組み」

［使用ソフト・サイズ］Illustrator、Photoshop、Dreamweaver
（デスクトップ版）幅 1920 pixel （スマートフォン版）幅 375 pixel

酒造「会津錦」広報ツールの提案

渡部 さくら

会津錦は福島県喜多方市高郷町にある酒造である。近年、日本酒市場は若者の酒離れによる酒類市場の縮小とそれに伴う酒類生産量の減少という課題を抱えており、会津錦も同様にその影響を受けている。そこで本研究は、地元への発信強化を図るパンフレットと、より広く情報の発信・周知を図ることができるWebサイトの２つのツールを制作し、会津錦の今後の酒造りの維持、発展を後押しすることを目的とする。パンフレットには商品の一覧を掲載し、Webサイトでは会津錦の紹介、商品一覧、各商品個別の紹介ページ等に加え、日本酒初心者に向けた日本酒用語や基礎知識の解説をするページを設けた。地元に根付いた温かい雰囲気の表現を目指し、「ぬくもりを感じることができる日本酒初心者にもやさしいツール」というコンセプトのもと制作に取り組んだ。

a

a. パンフレット　b. Webサイト「トップページ」
c. Webサイト「会津錦について」　d. Webサイト「商品紹介」

b

c

d

［使用ソフト・素材・サイズ］Illustrator、Photoshop、Dreamweaver　パンフレット：紙（表紙サイズ）21×10cm（展開サイズ）21×29.7cm
Webサイト：（デスクトップ版）幅1920pixel（スマートフォン版）幅375pixel

喜多方における蔵の保存・活用研究

島三の蔵の連なりを活かした通りのデザイン提案

江花 葵

観光通りに面する島三が所有する６つの蔵の連なりはこれまで未公開であった。閉ざされた蔵通りを再生することで、誰もが気軽に訪れることができ、蔵や喜多方の良さを日常的に感じる魅力ある場所になるのではないかと考えた。現地調査や実測を通して、勾配や昔の水路を活用した通りを提案した。また、蔵の外観はそのままに蔵内部の特徴を活かしたバーやミニシアター等を設けた。味噌蔵の段差や大きな梁が架かる広く暗い空間、質蔵の多重窓が見える開口部といった島三の蔵の魅力を意識して、通りの関心を集める商業・フロアプランを計画した。蔵を保存、活用することにより喜多方の活性化を図り、まちの事業のきっかけに繋がる。歴史的価値のある建造物が消えつつある類似の地域においてもヒントになる考察ができたのではないかと考える。

a

b

c

a. 全体模型　b. 通りの様子　c. CGによる米蔵１階（レストラン兼シェアキッチン）のイメージ

［技法・素材・サイズ］模型：レーザー加工　MDFボード　60×180×15cm
CGイメージ：SketchUp Pro

会津大学短期大学部
エントランス中庭におけるデッキ空間の活用

大場 千奈

短大エントランスと食堂からつながる中庭にはウッドデッキ空間がある。しかし、ウッドデッキ空間は経年劣化が進み現在の利用者はほとんどいない。昨年度、閑散としたエントランス空間の活用デザインが実施され、今年度からは多くの学生に利用されるようになった。同様に中庭ウッドデッキ空間に対しても学生にとっての快適な空間づくりが必要であると考え、まずは劣化したウッドデッキの危険個所について整備をおこなった。その後、学生がデッキ空間に何を求めているかアンケート調査を行い、結果をもとに外部環境に適した雨や日差し除けとなるタープ付きテーブルセットの制作をおこなった。また冬季期間中は積雪により外での使用ができない事を考え、室内空間での使用も想定しタープの取り外し、搬入搬出のための解体・組み立てが容易にできるようにした。

a

b

c

a. タープ付きテーブルセット　b. 使用している様子　c. パイプジョイントを用いた接合部

［素材・サイズ］スギ材、リップストップ生地（ナイロン）、パイプジョイント
220 × 160 × 220 cm

子どものための
移動式遊びユニットの提案

小林 さゆり

今日、NPO 団体等のイベントにおいて子どもを対象とした遊び場の提供に取り組んでいるが、玩具や文房具などの用具類が煩雑になりがちで整理が難しい状況になっている場合が多い。本研究では、子ども達がより遊びに集中でき、場所を問わず遊びの空間を提供できる上に、その空間が豊かになるような移動式遊びユニットを提案する。同じ深さの溝同士を組み合わせる簡易的な仕組みにすることで子どもでもユニットの組み立てが可能になり、幾通りの組み方ができる事で創造性を高め、自身で遊び場を形成する楽しさと自主性を育むことが期待される。会津てらこや教室での試用イベントでは最終的に全員がユニットに集まり、学年や性別に関係なく独自の使い方を見つけ出し遊んでいた。物理的な距離だけでなく心の距離も近付けられるユニットになったと考える。

a

b

c

a. ごっこ遊びユニット　b. ユニット構造の様子　c. 子ども用テーブルセット

［素材・サイズ］シナランバーコア　パネル：20 × 90 × 1.8 cm、40 × 90 × 1.8 cm、60 × 90 × 1.8 cm
（ごっこ遊びユニット）180 × 90 × 60 cm　（子ども用テーブルセット）210 × 90 × 40 cm

廃材を使った家具の提案

須藤 由佑緋

現在、木材の廃棄量が多いことが問題になっている。対策としてチップに加工しバイオマス発電で利用するなど、廃材は製品化として活用されるよりも燃料としての利用が多いことが分かった。本研究では、林業から出る木材を用いて提案・制作を行い、廃材が製品として残り続けるための家具を提案し、利用価値の向上を目的とする。一般家庭に置くインテリアとして、廃材の家具だからこそ生み出せる魅力と可能性を考察した。そこで、スギとヒノキを組み合わせ、木材が持つ様々な色合い、風合いを生かしたデザインにした。大量の廃材を製品化し再利用率を上げるためには、コスト面や木材の乾燥時間、加工工程も同時に考察していくことが大切だと感じた。廃材のネガティブなイメージの脱却を図ることができ、インテリアとして成り立つことを再認識できたと考える。

a

b

c

a. 椅子とローテーブル　b. 座り心地を意識した座面　c. 背中を優しく包む背もたれ

［素材・サイズ］林業から出た廃材のスギ材、ヒノキ材
椅子：42.5×42.5×72.5cm　ローテーブル：34.4×58.3×33.5cm

地域をつなぐひのき図書館の活用研究

地域における私設図書館活用・デザイン提案

高橋 ひなた

近年、公共施設の利用が減り、地域コミュニティへの参加が低迷している。一方で、私設図書館では地域住民を中心に利用者が増加し、新たな地域コミュニティを形成している。本研究では、私設図書館であるひのき図書館に着目し、本というツールを通して地域交流を促すことを目指す。また、ひのき図書館の利用者だけではなく、薬局利用者にも図書館利用のきっかけが必要だと考えた。アンケート調査の結果、図書館に続く階段が高齢者にとって困難であることが分かった。そこで、待合室に本棚を設置し、階段に登らずに本を読めるよう、薬局の特徴である切妻の吹抜けのデザインをベースに家型とベンチ型の本棚を制作した。本棚をきっかけに本を手に取り、更に図書館を利用する姿も見られ、活用が促されたと考える。本を通して利用者の地域交流に繋がってほしい。

a

b

c

a. 家型本棚とベンチ型本棚　b. 背面の黒板と折りたたみ式の棚　c. 屋根部分

［素材・サイズ］ヒノキ材、シナランバーコア、黒板塗料、棚受け金具
家型本棚：45×83×120cm　ベンチ型本棚：45×100×45cm

認定こども園における子育て支援の研究

榎の木こども園における
子育て支援スペースのためのデザイン提案

古川 美羽

社会状況が変化する中で、認定こども園においても子育て支援が求められている。調査を行う中で、榎の木こども園の子育て支援では、幼児と保護者が過ごすスペースが不十分なことが分かった。本研究では、子育て支援の充実性を高めることを目的とし、おもちゃ付きのパーテーションをプロダクトゼミと協力し制作した。子どもがおもちゃで遊ぶだけでなく、パーテーションのトンネルやカーテンをくぐることで隣のスペースに移動でき、他の遊びへと繋がるデザインを目指した。パーテーションの空間を仕切る機能だけでなく、そこに遊びの要素を加えることで、新たな遊び場としての幼児と保護者の居場所作りをすることができた。子育て支援専用の施設やスペースを設けることなく、空間を作り出すことができるため、子育て支援の可能性を広げることにも繋がったのではないかと考える。

a

b

c

a. 様々なパーテーション　b. パーテーション（おもちゃ、トンネル、鏡）　c. くるくる回転するおもちゃで遊ぶ様子

［素材・サイズ］ヒノキ材、シナ積層合板、ホワイトボードシート、マグネットシート、カーテン布、突っ張り棒、ミラーシート、アクリル絵の具
（パーテーション）60 × 90 × 3.5 cm　（固定具）20 × 30 × 1.5 cm

会津若松市民に伝える
広報誌リニューアル

岡田 海佳瑠　山口 夏琳

近年、スマートフォンの普及に伴い、情報伝達に著しい変化が生じている。これにより、従来の主要な情報発信方法である広報誌の在り方においても対応が求められている。そこで、広報課題について調査研究し、今後の広報施策に反映できるよう調査研究を行っていくことに決定した。市民に好まれるデザインの方向性を知るために、現地視察や事例調査を通してサンプルを制作し、アンケート調査を行った。その結果、工芸とカフェめぐりをテーマにした特集ページや、実用性のあるカレンダーを取り入れた裏表紙などが好まれることが分かり、会津らしさを残すことや明るい特集テーマが必要な要素であることがわかった。それらを元に広報誌のプロトタイプを完成させた。この研究により、今後の広報施策がより発展していくことに繋がるのではないかと考えられる。

a

b

c

a. 広報誌のプロトタイプ　b. 特集ページ「会津の工芸×カフェめぐり」
c. 特集ページ「第25回会津絵ろうそくまつり」

［素材・サイズ］紙　29.7 × 21 cm

会津若松中心市街地活性化

阿部 叶葵　桑田 凛花　野崎 花

マチイク

会津若松市では、中心市街地の空洞化が問題となっている。市役所は空洞化の拡大を防ぐために第３期会津若松市中心市街地活性化基本計画を策定した。しかし76ページにも及ぶ計画書は文字数が多く、計画自体の認知度も低かった。そこで本研究ではこの計画内容を、市民により簡単に理解してもらうための概要版を制作することにした。商工課の協力のもと市街地を調査し、各店舗の魅力が伝わるよう写真を撮影した。レイアウトや写真の選定など打ち合わせを重ね、UDフォントを使い、色の対比を明確にすることで、誰でも読みやすいデザインを心掛けた。キービジュアルである「マチイク」は、市内に馴染み、老若男女に愛されるデザインにした。親しみやすいパンフレットに仕上がったことで、広く市民に計画を知ってもらうことができるのではないかと考える。

b

c

a. キービジュアル　b. のぼり旗　c–h. 概要版（パンフレット）

［素材・サイズ］概要版：紙　29.7 × 21 cm
のぼり旗：布　180 × 60 cm

d

e

f

g

h

喜多方ラーメンと
女性客を繋ぐデザイン

飯島 凛

喜多方ラーメンは男性を中心に大変人気がある。もっと女性にも気軽に来て欲しいという店舗側の思いを知ることとなり、女性客が一人で入店できるような提案をしたいと考えた。そこで「喜多方老麺会」の加盟店で修行している若者達という設定で、店舗ごとのイメージを擬人化させたイケ麺35というキャラクターを制作した。各店舗の味や魅力、ラーメンへの思いを衣装の色や柄に反映させ、イケ麺の表情や背丈、ポーズで店の特徴を視覚化した。イケ麺35を活用した35店舗分ののぼり旗は、キャラクターと商品を全面に表現したデザインとなっている。スタンプラリーの冊子には名前や性格を記載しイケ麺を親しみやすく、かつ好感が持てるようにした。楽しくスタンプラリーを行い、美味しいラーメンを食べる事で、イケ麺（喜多方ラーメン）の虜になる戦略となっている。

a

b

c

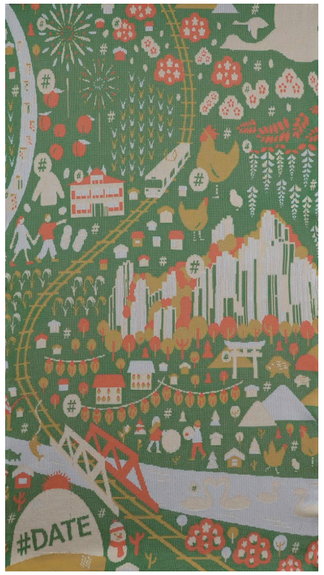
a. イケ麺35　b. スタンプラリー用のパンフレット、はんこ、アクリルスタンド　c. のぼり旗

［素材・サイズ］パンフレット：紙　29.7×21cm　　はんこ：ゴム印、木　2.6×2.6×6.2cm
アクリルスタンド：アクリル　5.3×29.5×4.5cm　　のぼり旗：布　180×60cm　全35点

伊達ニットの魅力を伝える
広報ツール

石神 優也

伊達ニットは古くから続く高度な技術と生地の柄の美しさで知られる福島県伊達市の地域ブランドである。だが、近年では海外製の安価なニットが量産され、その影響を受け生産量が減少している。そこで本研究では「＃DATE」という共通テーマを掲げ、伊達ニットの魅力を世の中へ広く効果的に発信する広報活動を目的とし、ニット製ポスター、紙製ポスター、パンフレットを制作した。ニット製ポスターは間近でニットの美しさと技術力を感じてもらい特産品として認知度を向上させるツールとした。着用せずとも優しく温かい編み目と分かるよう意識し、絵柄が認識できるようにシンプルな色や形のデザインに仕上げた。パンフレットは伊達ニットの特徴や技術を再認識してもらい興味を抱くきっかけを作り、人々に伊達ニットの素晴らしさを感じてもらうことを目的とした。



a

b

c

d

a. ニット製ポスター　b. ニット製ポスター（部分：秋の雪山、冬のあんぽ柿）　c. 紙製ポスター　d. パンフレット

［素材・サイズ］ニット製ポスター：ニット　168×93cm　　紙製ポスター：紙　103×72.8cm
パンフレット：紙　21×14.8cm

子育てに向き合うためのデザイン

瀧 萌子

現代の子育ては、家庭や地域全体で協力して育児を行うことを目的としている。だが、現状は核家族化や共働き世帯の増加により、子育ての向き合い方に未だ偏りが生じている。本研究では家族が意識的に子育てに向き合うためのツールを２点制作した。一つ目は誕生から18歳までの成長を綴る子育て手帳である。年齢に合わせたテーマとなっており長期間子育てに寄り添うことができる。手帳を家庭内で共有することで家族のサポートが受けやすい状況になるのではないかと考える。将来的に親から子へ手帳を繋ぐことで当時の思いを感じ取りつつ子育てをしてもらいたい。二つ目はスキンシップが必要な０～３歳を対象とした遊び一覧表である。動画視聴の気軽さから抜け出せない保護者のため、スキンシップの重要性やお互いが心豊かになる感覚を体験してもらいたい。

a

b

c

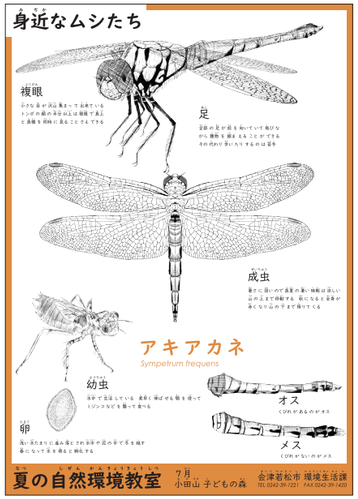
a. 子育て手帳　b. 子育て手帳を外函に収めた状態　c. 遊び一覧表

［素材・サイズ］子育て手帳：（冊子）紙　21×14.8cm　（外函）紙　22.1×15.6×5.8cm
遊び一覧表：紙　42×59.4cm

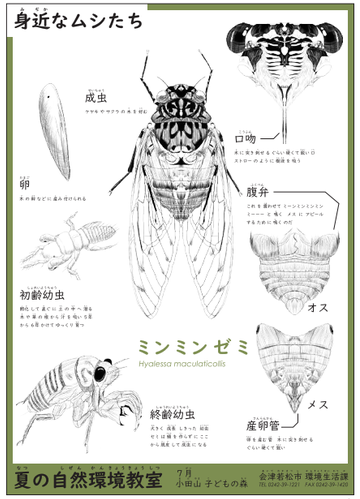
自然環境教室の生き物を学べるポスター

古川 仁互

自然環境教室とは、会津若松市環境生活課が主催するイベントで、子どもたちが生き物の知識を身に着け、生き物と自然に興味を持つことを理念としている。しかし認知度があまり高くない。その為、自然環境教室を宣伝し、受講前でも会津若松市に生息する生き物について学べるポスターを制作した。制作数は夏秋冬に開催される各プログラムにそれぞれ３点ずつ、合計９点である。イラストは単色の線を重ねて描いた物を用いており、色を使わずに立体感を表現している。解説する内容は、プログラムのテーマとなる生き物の幼体や成体、食性、生態等である。哺乳類に関してはフィールドサインを掲載した。事前に知識を得ることで、生き物への関心が湧くことを狙っている。生き物の様体や知識を載せているが、色彩や動きは敢えて載せず、本物を見たときの感動が損なわれないようにしている。



a



b

c

d

a. ポスター「身近なムシたち／アキアカネ」
b. ポスター「身近なムシたち／ミンミンゼミ」
c. ポスター「野鳥観察会／カワウ」
d. ポスター「フィールドサイン観察会／ニホンカモシカ」

［素材・サイズ］
紙　72.8×51.5cm　全９点

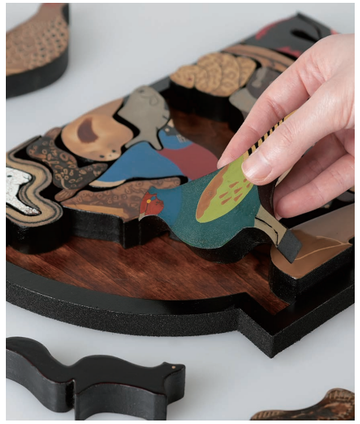
漆と日本固有種の保全を訴求する玩具

大粒来 莉々

２年間漆工芸を学び知識を深める中で、日本の漆文化は自然の中で育まれていると感じた。漆器は古来より人々の暮らしと共にあり守るべき大切なものである。また、日本固有種と呼ばれる動物たちもこの国独自の自然環境の中で生息してきた。現在、漆も日本固有種もそれらを取り巻く環境の変化によって希少性が高まっている。それらを守るために本研究では日本固有種をテーマとした漆塗りのパズルを制作した。漆のパズルで遊ぶことで日本固有種と漆の技法の周知を図ると同時に、漆器に対して抱かれがちである古い、触れづらいという認識の刷新を目的としている。日本固有種は原型に近い形にし、色漆を使い特徴的な模様を表現することに努めた。この制作物を通して日本固有種を知ってもらい、それらを温かく見守る人、漆に関心を持つ人が増えてほしいと願う。

a

b



c

a. 作品全体　b. 日本固有種のピース（左上から：ルリカケス、シマヘビ、ニホンノウサギ、ヤンバルクイナ、タナゴ、アカハライモリ、ハブ、オオサンショウウオ）　c. 遊んでいる様子

［技法・素材・サイズ］蒔絵、卵殻、変わり塗、朱磨き、石目地塗、摺り漆　漆、MDFボード、シナ合板　19×29×2.2cm

可変式漆塗りミニ仏壇の提案

片桐 成

生活様式の変化により、大きく豪華な仏壇を目にする機会は少なくなっている。その中で登場したミニ仏壇は、装飾が控えめで簡素化されたデザインのものが多い。会津は漆塗位牌全国シェアNO.1となっており、今後も仏壇仏具に関する新たな発想が必要だと考えられる。そこで現代のニーズに応えながらも会津から発信する新しい漆塗り仏壇仏具を提案したいと考えた。コンパクトに収納できる仏壇本体には可変機構を設け、スライド式の棚は三段となり、左右のパネルも四枚に展開できるようにした。会津の伝統技法である朱磨きで蓮の絵を描き、四季の花木は漆絵で描いた。引き出しには会津桐を使用し、線香や仏具、経本などを収納できる。本研究を通じ、家庭の数だけ祈りの形がある現代社会において、漆塗り仏壇の新しい形の一つとして提案出来れば良いと思う。

a

b

c

a. 基本形態　b. 扉を閉じた状態　c. 扉、棚を全て展開した状態

［技法・素材・サイズ］漆絵、朱磨き、摺り漆　漆、紫檀、桐、シナ合板
（扉を閉じた状態）31×38×41cm　（扉、棚を全て展開した状態）38×87×42.5cm

新たな漆塗りの魅力を伝える椅子の提案

神野 恵司

かつて漆は世界を魅了する工芸品として発展したが、バブル崩壊を機に漆器の生産も減少し、現在は生活に取り入れにくいというイメージが定着している。漆の可能性を広めるためには、漆の新たな魅力を伝える提案が必要ではないかと考えた。本研究では伝統工芸の魅力を理解し、生活を豊かにする上質のものを購入しようとする層に向け、所有する喜びを感じられるような椅子の提案を目的とした。そこで漆特有の塗りの質感や、麻布を漆で貼り重ねる乾漆技法による造形の自由さを漆塗りの魅力として表現し、新たなジャンルとして乾漆で作られた椅子を制作した。ユーザーを優しく包み込むような曲線的で優雅な形を、麻布を11枚重ねた乾漆技法で制作し、座り心地よく美しい座面を実現した。この椅子を通して、より多くの人々に漆の魅力が発信されればと考える。

a

b

c

a. 作品全体　b. 側面　c. 背面

［技法・素材・サイズ］乾漆技法　漆、麻布、ナラ
76.5×59×64.5cm

漆×推し活

千葉 有紀乃

漆業界では、生活様式の変化に伴い漆器の需要が減少している。この状況を改善するためには若い世代の興味・関心を得ることが必要ではないかと考え、近年、若者を始め幅広い世代が注目する「推し活」に活用できる漆製品を提案することとした。トランクケース風の箱にすることで、存在感がありつつも堅苦しくないデザインにした。ケースの縁には青漆を塗り、漆には朱色や黒以外にも色漆があることを伝えられる工夫を施した。ケース内にはA4ファイルがぴったり収まり、仕切りがあるため小さなグッズも並べることができる。ケースを展開することで、屋外での撮影時に小さな撮影ブースとして使用することが可能で、その写真をSNS等で発信することで漆の存在もアピールできる。このトランクケースを通して様々な世代に漆の存在を感じてほしいと思う。

a

b

c

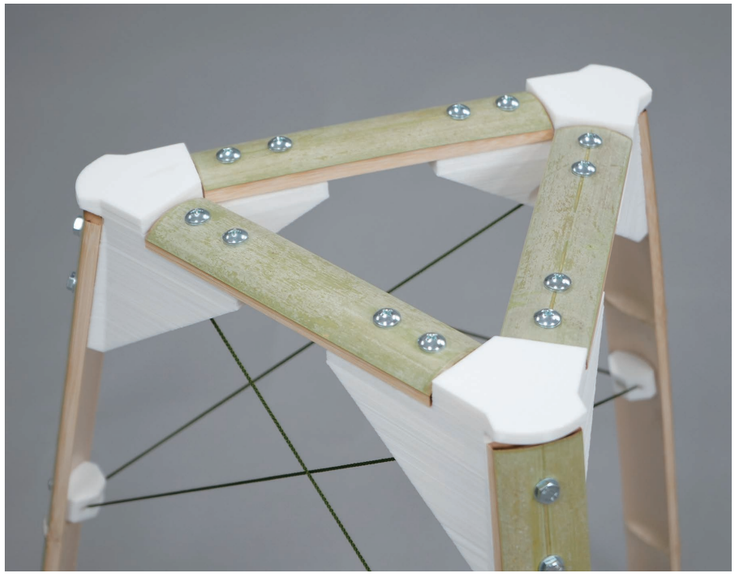
a. 蓋を開けた状態　b. 収納した状態　c. 推し活で使用している状態

［技法・素材・サイズ］布目塗　漆、桐、シナ合板、麻布
27.5×35.5×17cm

ジョイントに着目した竹スツールの提案

石川 凌太郎

竹は中空構造となっており加工しやすい一方で、部材同士の接合が難しいという問題がある。そこで本研究では竹の接合方法に着目して、部材同士を接合しやすくするジョイントを提案し、ジョイントを用いて竹の魅力が活かされるスツールを製作した。スツールのデザインからジョイントの形状を検討し3Dプリンターで出力した。竹の内側の曲面に沿うようにジョイントのカーブを試行錯誤したほか、ジョイントの強度を高めるためのパーツを補った。また、見栄えを良くするために竹の断面を隠すパーツをジョイントに取り付けた。スツール製作の段階で強度に不安があったため、紐を取り付けられるジョイントを製作し強度の向上を試みた。竹の新たな接合方法となるジョイントを提案できたことは他の製品への応用も期待できるため、竹の利用促進に役立つと考える。



a

b

c

a. 三角スツールのジョイント　b. 紐を張るジョイント　c. スツール3点

［技法・素材・サイズ］3Dプリンター　竹、PLA、PPロープ
三角スツール：29×33×50.5cm　丸スツール：27.5×27.5×51.5cm　四角スツール：13×35×53.5cm

竹を使用したマルシェテントの提案

近藤 直道

本研究では、会津若松市大戸町で発生している放置竹林の問題を背景に、放置竹林の認知促進と竹の需要増加のために竹の活用方法の可能性を広げることを目的とした。まず、活用先として、マルシェで使用されているテントに着目した。大戸町では年に数回マルシェが開催されており、マルシェのシンボルとして竹のテントを使用することで、放置竹林の認知向上に繋がると考えたためである。テントの造形スタディを行い、竹の「軽く・加工しやすく・しなやか」である点を活かした造形となった。割った竹を使用し、竹の先端にロープを結び、天幕を張る構造とした。竹同士を接続するためのアタッチメントは再利用できるもので、天幕は紫外線に強く劣化しにくいポリエステルで製作した。本研究の結果、当初の研究目的を考える上での足がかりとなる成果物となった。

a

b

c

a. 作品全体　b. 竹とロープ、天幕の接合部　c. アタッチメント

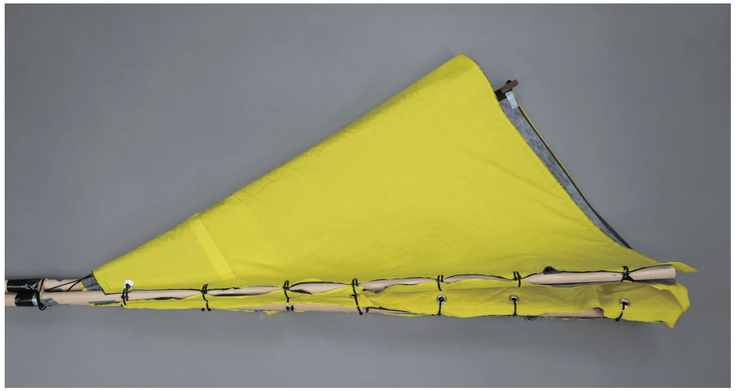
［素材・サイズ］（フレーム）竹、MDFボード、パラコード　（天幕）ポリエステル生地
250×250×250cm

音量を抑える簡易型防音室の提案

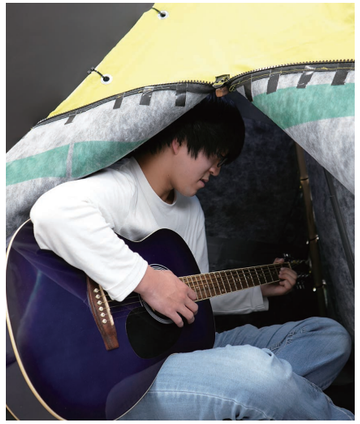
齋藤 司

自宅でのギターの練習時に音が外に響いてしまい、周囲との騒音トラブルが生じる可能性がある。ギターの音量を抑えるための既存製品が幾つか存在しているが、いずれも音色に大きく影響を与えてしまう問題がある。そこで本研究では、ギターを弾く際に、音量を抑える防音室を提案することを目的とした。既存の防音室を調べた結果、組み立てを要するものや収納しづらいものが多いことが分かった。次に、防音室のデザインを行った。製作した防音室には、音を漏れにくくするため防音室の外壁に遮音シートを使用した。防音室の形をトライポッド型のテントの形にし収納しやすくした。防音室の中から音源を流し音量を計測した結果、全体的に音量は低くなったが、低音部の音量は低くなったことに対し、高音部の音量が抑えられないという問題点が残された。

a



b



c

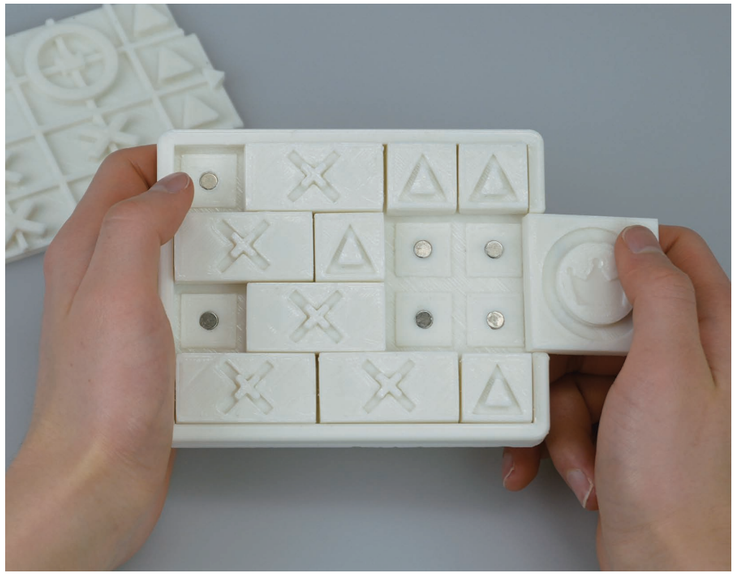
a. 防音室を設営した状態　b. 防音室を折りたたんだ状態　c. 防音室の中でギターを演奏している様子

［素材・サイズ］木材、遮音シート（高比重物質配合リサイクル塩ビ樹脂シート）、ブロード生地、アルミ、結束バンド
150×160×175cm

視覚障がい者向けのボードゲーム

豊島 充望

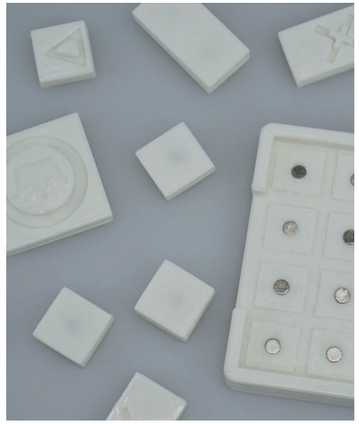
本研究では、視覚障がい者でも手軽に楽しめるボードゲームの提案を行った。まず市場調査を行い、ゲーム性やデザインのコンセプトを考えた。その結果、道具はシンプルで大きく、凹凸や点字で表裏がわかるもの、取り扱いが簡単で一人でも遊べるゲームを目指すこととした。成果物として、配置盤を参考にゲーム盤にコマを並べ、コマを並べ替えながら出口まで持っていければ成功というゲームを提案した。最初に配置盤を触ることで位置を覚え、ゲーム盤、コマにそれぞれ凹凸をデザインし、指先の感覚だけで遊べるようにした。手に持って遊ぶことを想定し、コマの落下や不用意な動きを防止するためにゲーム盤、コマともに磁石を埋めた。今回の研究で、視覚障がいを含め様々な事情を抱えている人に幅広く応用ができるデザインを追求することができた。



a

b

c



d

a. ゲームをクリアした様子　b. 配置盤を覚えている様子　c. ゲームをしている様子　d. 磁石を埋めたコマ

［技法・素材・サイズ］3Dプリンター　PLA、磁石　（ゲーム盤）10×13×1.7cm　（配置盤）9×10×0.5cm
（コマ○）4.6×4.6×0.6cm　（コマ△）2.3×2.3×0.6cm　（コマ×）2.3×4.6×0.6cm

陶紙を用いた食器の提案

吉田 美桜

陶器は、色味が渋く、重厚感があり、プラスチック等に比べて扱いにくい。そこで色味を明るく、薄い食器を作ることで、陶器の印象が変えられるのではないかと考えた。陶器について調べる中で、陶紙という素材に注目した。紙と同じように扱うことができ、焼成するとセラミックとなる素材である。そこで本研究では、陶紙ならではの新しい陶器の形を提案し、陶器の印象を変えることを目的とした。まず、陶紙を折り曲げる方法と切って貼り合わせる方法の２種類で実験したところ、切って貼り合わせる方法でうまく焼成できることがわかった。次に３パターンの造形を製作した。その際陶紙を４枚重ねて焼成し、割れにくい厚みにした。その結果、陶紙による薄くて軽い食器ができ、今までの陶器の印象を変える食器の提案をすることができた。

a

b

c

a. 食器３点　b. 焼成前の状態　c. 陶紙を重ねて割れにくくした状態

［技法・素材・サイズ］焼成　陶紙、陶紙用のり、陶紙用釉薬
9×9×1.5cm　8×8×2cm　7×8×1.5cm

インターフェース　｜横尾ゼミ｜

デジタルを極める

インターフェースゼミでは、Webデザインをはじめデジタル技術やプログラミングなど、デジタルコンテンツを幅広く学ぶことができます。前半では、IllustratorやPhotoshopに加え、Webサイト制作に使用するDreamweaverなどのデザインアプリケーションの使い方を学びます。後半は、前半の実習で学んだことを生かしながらゲームやVtuber制作など、それぞれの興味のあることについて学ぶことができるため、様々なデジタルデザインに触れたい人にぴったりのゼミです。

インターフェースゼミに横尾先生あり

それぞれが興味のあることについて学べるインターフェースゼミですが、ゼミ生同士で過ごす時間も多く、毎年恒例の横尾先生の誕生日会では、１年生を含めたゼミ生全員で買い出しに行き、ゼミ室を盛大に飾り付けてお祝いしたり、料理をしたりしました。今年の秋には横尾先生の提案で飯盛山散策にも行き、紅葉の秋と食欲の秋を楽しみました。私たちが悩んでいるといつも親身になってサポートしてくださり、全力で私たちと一緒に楽しんでくれる横尾先生がいたからこそ、課題や卒業研究も乗り越えることができたと思います。

インテリア　｜柴﨑ゼミ｜

夢に近づいた２年間

インテリアゼミでは、住宅の建築設計をはじめ、インテリア、空間等を学ぶことができます。指定科目の単位を取得することで二級・木造建築士の受験資格を得ることができ、０～２年の実務後、建築士になることができます。図面や模型を制作しプレゼンを行うため表現力を高めることができ、完成したときには、建築の楽しさを感じることができます。また、ゼミ生と切磋琢磨し競争心を燃やしながらも互いの作品を賞賛し合い、みんなで技術力を高めてきました。この２年間は、人生で必要不可欠な時間だったと感じています。

みんなとの仲深まり杉

実習では、ゼミ生一人ひとりの将来を想定し、６人全員の世帯が住む住宅を考えるという難しい課題が出ました。全員の要望に応えながらデザインすることにとても苦労しましたが、みんなそれぞれ良い作品をつくり上げることができたと思います。ゼミ室は自宅のような安心感がありました。毎日ご飯を食べたり、作業をしたり、みんなの絆もすぐに深まりました。また、先生とゼミ生で談笑会やお茶飲み会をしたり、タコパをしたりと、２年間という短い期間の中で楽しく充実したかけがえのない時間を過ごすことができました。

グラフィック　｜高橋ゼミ｜

社会性が身につき協力し合うゼミ

グラフィック分野、高橋ゼミでは広告・出版・印刷などに関連することを学び、将来へ向けて経験を積み重ねていくことを目標にしています。ゼミ活動は、外部とタッグを組み、ツール制作を行うことが多いので、社会性が身につき、卒業後もゼミで学んできたことを存分に活かすことが出来ます。実際に制作したデザインを会津若松市の地域の方々に見ていただく機会があるので、達成感を感じられます。ゼミのみんなと協力し合い、一人ひとりのスキルを活かした活動を行うので、団結力、コミュニケーション能力が高まります。

楽しく真面目に

ゼミでの思い出は、それぞれの誕生日です。高橋先生がそれぞれの誕生日にお祝いをしてくださり、誕生日の日に因んだものをプレゼントしていただきました。ゼミ生からも、先生の誕生日にはみんなで作ったケーキや、お祝いのポスターで誕生日をお祝いすることができました。他にも、ゼミ活動で地域のイベントを見に行ったり、活動に必要な話を県外へ聞きに行ったりし、活動をする中で会津若松市について知ることができ、美味しいものを食べるなど楽しみもあり、メリハリのある活動ができたことも思い出です。

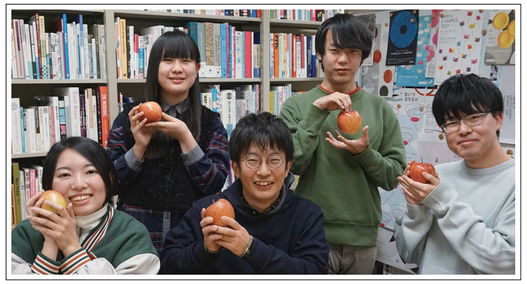
グラフィック　｜北本ゼミ｜

自ら学ぶ

北本ゼミは、平面上の文字や図、色を組み合わせ、情報を正確に届ける力を養います。また、ロゴ、ポスター、パッケージなど、２年間で様々な媒体を制作することができます。どのようなデザインが実用性が高いのか、興味を惹かれるかなど、常に第三者の視点に立って制作します。卒業研究は、自らが決めたテーマのもと、取材から作品制作まで一人で行います。他の授業課題と並行しながら数多くの作品を制作するため、計画性を持って行動する必要があります。そのため、デザイン力だけでなく主体性も鍛えられるゼミです。

北本先生といっしょ

北本ゼミは課題が多いゼミですが、皆で放課後も課題制作に励みました。星空を見ながら帰った日々や、制作の合間の休憩時間は思い出深いです。デザインや日常生活で悩んだ時は、まず北本先生に相談します。北本先生はゼミ生のデザインや性格の長所と短所を考え、それぞれに合わせて指導してくださいます。得意なことを活かすデザインや短所によって予測される今後のリスクなど、常にゼミ生を気にかけてくださいました。その厳しくも温かい言葉を胸に抱き、自らの言動を見直し、社会人としてゼミから巣立ちたいと思います。



クラフト　｜井波ゼミ｜

荒波、凄み、井波ゼミ

井波ゼミは漆芸を専門に学ぶゼミです。漆とは古くから用いられてきた天然素材です。２年間を通して木工や乾漆、螺鈿、卵殻、蒔絵等の技法について学びます。造形作品だけでなく平面作品も制作できるため絵を描くのが好きな方にもおすすめです。実習では自分の個性を活かした作品を作ることができます。また、美術館や博物館に行き工芸や美術に関する知識を得ることができます。工程が多く集中する作業も多いため、根気強く取り組まなければなりませんが、その分作品が完成した際は井波ゼミならではの達成感があります。

痒みの先の更なる高み

井波ゼミでは、まちなかアートプロジェクトや福島県の総合美術展、輪島市への研修旅行といったゼミ活動がとても印象に残っています。どの作品制作でも作業量が多く、気を抜くとかぶれます。しかし、ゼミ生一丸となって夜遅くまで残り作業した事は今ではかけがえのない思い出です。研修旅行では輪島市までの道中、海や砂浜を楽しんだり、神野恵司君の故郷佐渡島を見たりと、とても面白かったです。また、一年生歓迎会での井波式シフォンケーキはとても美味しかったです。最後に先生の猫の名前はごま、みそ、あんです。

プロダクト　｜沈ゼミ｜

人生の勝負どきが来たなっ！

プロダクト分野は、工業製品に加え家具、食器、玩具、生活用品など幅広く扱う分野です。沈ゼミでは、人々のニーズを解決する製品デザインについて学びます。ユーザーが普段、生活の中で抱えている不満や欲求から問題を抽出します。そして、調査や議論を重ねてアイデアを考え、試行錯誤をしながらより良い製品を創り出していくことで、デザインの基礎やモノづくりの知識を深めていきます。また、沈先生は悩んだり行き詰った際に、親身に寄り添い「大丈夫。一緒にがんばろう！」と皆の気持ちを励ましてくださいます。

俺らプロダクト最強の世代だから！

私たちは、２年という短い間でしたが、たくさんの経験をしてきました。特に印象に残っているのが、自主制作として行ったアクリルキーホルダー製作です。発案からデザイン、製作までイチから自分たちで行い、実際に大学祭で販売をしました。その過程で何度か僕たちの前に大きな壁が立ちはだかりましたが、みんなで協力して乗り越え、無事に作り出すことができました。他にも、沈先生が開いてくださったバーベキューやクリスマスパーティーなどをしました。沈先生のユーモアと５人の笑い声でとても賑やかなゼミでした！

DESIGN GRADUATION WORKS 2024
卒業作品集

編　　集｜北本 雅久　加藤 早織　五ノ井 仁　石川 咲

デザイン｜北本 雅久

発　　行｜会津大学短期大学部
産業情報学科 デザイン情報コース
福島県会津若松市一箕町大字八幡字門田1-1
TEL 0242-37-2300（代） URL https://www.jc.u-aizu.ac.jp/

発 行 日｜2024年3月18日

本書の無断転写、転載、複製を禁じます。

JUNIOR COLLEGE OF AIZU